

- ② 家庭でできる生ごみ減量
- ③ 暑い季節は食中毒に注意
- ④-⑤ **特集 3年ぶりに開催
あつぎ鮎まつり**
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



皆さんの協力で 楽しい祭りに



あつぎ鮎まつり
実行委員会
中村幹夫 実行委員長
(75・上依知)

「祭りをやってほしい」という気持ちがあっても、口には出せない2年間だったのではないのでしょうか。今年は、市民や企業の皆さんの意見を聞く中で、多くの方から開催してほしいという思いを受け取り、3年ぶりの開催に至りました。

今回は皆さんに安心して楽しんでいただくため、感染対策として出店数の縮小や飲食スペースの設営など、普段とは変更した部分があります。

鮎まつりは、私たち市民の心に根付いた大切な文化です。今年も「開催して良かった」と思えるよう、ぜひ皆さんの感染予防への協力をお願いします。そして後世に私たちの思いを伝えていけるよう、思い切り楽しみましょう。

基本的な感染対策を



熱中症の心配がないときはマスク着用



体調が悪い場合は来場しない



小まめな手指消毒を



食べ歩きは禁止。飲食は決まった場所で黙食

《4・5面に関連記事》
◎観光振興課 ☎225-2820
写真はInstagram投稿者から提供

炎天下にずらりと並ぶ露店、まぶしく見えたあの子の浴衣姿、相模川に映る大輪の花火。私たちの夏には、いつも鮎まつりがありました。2020年、感染症がまん延し、73回続いた祭りの歴史に初めて空白ができました。今年は多くの方からの開催を希望する声を受け、3年ぶりに再開します。

花火打ち上げ時間の短縮や観覧会場の人数制限の強化、出店数の縮小など、普段とは形を変えて開かれる鮎まつり。少し違うところはあっても、きつと記憶には同じ数だけ、すてきな思い出が残るはずです。